子どもの命を守る

子どもの骨折を防ごう！

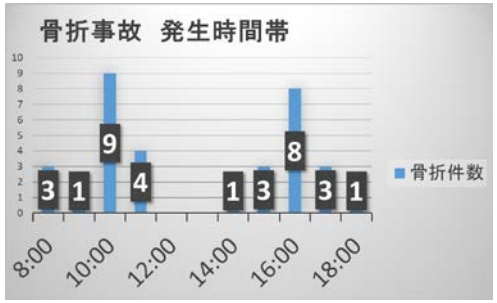
巡回訪問つうしん4号

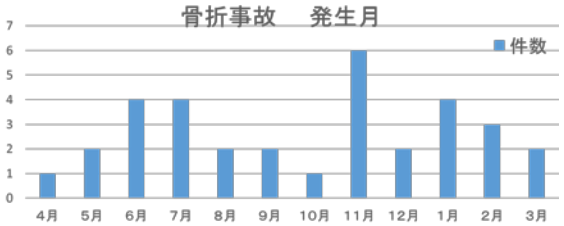
令和2年8月発行

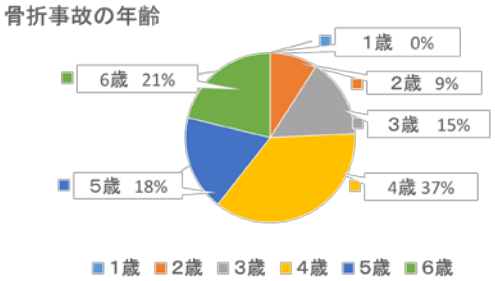
子どもの重傷事故で一番多いものが骨折です。骨折事故は子どもの特性を知り、危険な環境の改善や行動への予測によって減らすことができます。

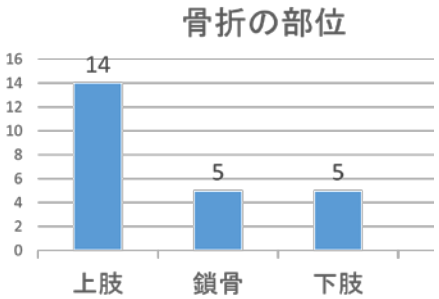
令和元年度市内事故報告書より

骨折データ









こんな時に骨折事故がおきています！

- おむつ交換で保育者が抜けて、別の保育者がトラブル対応をしていた時に、保育者が見ていなかったところで転倒して骨折
- 鬼ごっこで滑り台やジャングルジムに駆け上がり転落して手をつき上腕骨折
- 散歩の時、公園の中で木の根っこに引っかかって転倒し、足を骨折
- 出会いがしらにぶつかった衝撃で鎖骨を骨折
- 友だちとフラフープを引っ張り合ってバランスを崩して転倒し手首を骨折

子どもの骨折の特徴

子どもの骨は成長過程にあり、まだ柔らかいので「不完全な損傷」になるときがあります。骨膜という膜の内側で筋状にひびが入る「線状骨折」骨の一部に亀裂が入って曲がる「※若木骨折」もあります。小さい子どもは、自分の状態を上手に伝えることができません。大人が様子を見て判断してあげるしかないのです。

〈骨折を疑ったほうがよいのは〉　（日本医師会より抜粋）

- 痛がって激しく泣く
- 皮膚の一部がひどくはれる
- 皮膚の一部に内出血が見られる
- 腕や足に力が入らない
- 腕や足の向きがおかしい

※若木骨折とは
ポキッとは折れず、若い枝のように曲がって傷ついている状態で、弾力性がある子どもの骨にみられる骨折

市内保育施設の事故報告書では、翌日に骨折が分かった事例が複数ありました。

さらにこんな時も疑ってみましょう

◎「いつもと様子が違う」「触るのを嫌がる」「手を使わない」「足に体重をかけない」など…

◎子どもの骨は“折れる”という感覚ではないので気が付きにくく、見逃しやすい…

◎事故の場面を見ていなかったら…　気になったり悩んだりしたら…

骨折でも腫れないこともあります。また、痛がらなくても何かしらサインを出しています。疑われる症状は骨折を想定し、自己判断せずに整形外科へいきましょう。
※レントゲンを撮る可能性が高いので保護者の了解をとりましょう。

【応急処置】　患部を動かさない。その部分を副木（そえぎ）で固定し、心臓より上にあげた状態で冷やし、できるだけ早く安静を保って病院へ行く。

骨折を防ぐために保育者が気を付けるポイント

- □健康観察や家庭からの連絡、子どもの日々の情緒・体調の把握を行う
- □危険を回避するための子どもへの安全教育（遊具・園庭等の遊び）
- □事故発生時の役割分担を「ケガの対応をする人」「他の子を保育する人」など、事前に明確にしておく
- □年齢の異なるクラスが合同で活動する時には、発達の差を考慮する
- □慣れた場所でも危険予測を十分に行う

こども青少年局　保育・教育運営課
連絡先　045-671-3564